第12回 恒藤恭シンポジウム

恒藤恭の文学的世界と法学的世界の射程

松江時代には文学青年であった恒藤（井川）恭は、一高・京都帝大を経て法哲学者としての道を歩みますが、恒藤にとって「文学」の世界と「法学」の世界は、決して対立するものではありませんでした。青年期の習作や戦前期の法理論を通じて、その軌跡を顧みたいと思います。



留学中の恒藤恭（1924年）
（資料番号Ⅻ 7-1）

報　告

奥野 久美子（大阪公立大学大学院文学研究科教授）
「恒藤恭の社会認識形成―山陰社会事業の父・福田平治との関わりに触れつつ―」

久野 譲太郎（ハイデルベルク大学客員研究員）
「時代と向き合う法学知―1920年代の社会・思想状況と恒藤恭の法理論―」

総括コメント

広川 禎秀（大阪公立大学大阪市立大学恒藤記念室特任教授・大阪市立大学名誉教授）

話題提供

中村 奈々（大阪公立大学大学史資料室研究員）
「恒藤叢書について」

司　会

安竹 貴彦（大阪公立大学大学院法学研究科教授）

『恒藤記念室叢書』を展示・紹介します

入場無料
申込不要

2026年
11月28日(土)

午後2時～5時
（開場 13:30）
大阪公立大学 杉本キャンパス
学術情報総合センター
1階　文化交流室

■ 主催
大阪公立大学 大学史資料室／大阪市立大学恒藤記念室

問い合わせ先 ： 大阪公立大学　大学史資料室
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
tel :(06)6605-3371

プロフィール



奥野　久美子（おくの　くみこ）

大阪公立大学大学院文学研究科教授。博士（文学）

専門は芥川龍之介を中心とする日本近代文学。恒藤恭シンポジウムでは第5回（2013年11月）に「恒藤恭と芥川龍之介の交流―青年期の体験と読書から―」と題して発表。恒藤恭に関する論文に「恒藤恭、芥川龍之介の日露戦争―トルストイの読書体験とあわせて」（『大阪市立大学史紀要』第7号　2014年10月）、「大阪市立大学恒藤恭旧蔵資料と明治期島根県明星派歌人とのかかわりについて」（西田 正宏・奥野 久美子 編『上方・大阪都市文化の研究拠点形成: 大学アーカイブの整備と発信』URP「先端的都市研究」シリーズ34　2022年03月）がある。



久野　譲太郎（くの　じょうたろう）

ハイデルベルク大学客員研究員、同志社大学嘱託講師、博士(文化史学)。

専門は日本近現代史(思想史・日独関係史)。直近の作品は、書評「小宮正安『エリザベートと黄昏のハプスブルク帝国』(創元社、2023年)」『文化史学』第80号、2024年11月、論文「羽仁五郎の留学体験と歴史理論の形成」『歴史学研究』第1078号、2026年8月など。また、論文„Aktivitäten und Denken von Iwakura Tomozane als Lektor für Japanisch an der Universität Heidelberg in der NS-Zeit“ が国際共同研究の成果報告論文集に掲載の予定(2027年3月)。

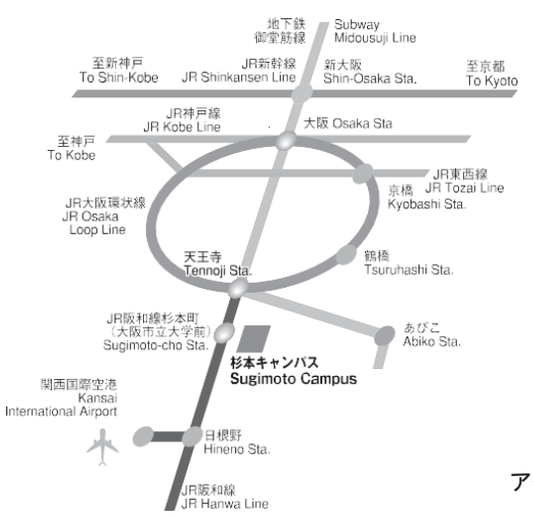


広川　禎秀（ひろかわ　ただひで）

大阪公立大学大阪市立大学恒藤記念室特任教授、大阪市立大学名誉教授。博士（文学）。

専門は日本近代史。『恒藤恭の思想史的研究』（大月書店 2004年）など、恒藤恭の思想史的研究を行い、近作に「憲法問題と恒藤恭 」（『大阪公立大学史紀要』第4号、2025年）ほかがある。長く大阪市立大学大学史資料室長を務め、大阪市立大学恒藤記念室の資料充実に尽力した。大阪市立大学大学史資料室編『向陵記―恒藤恭　一高時代の日記― 』（大阪市立大学、2003年）の編集・刊行では中心的役割を果たした。

シンポジウム当日、恒藤記念室所蔵資料の展示中　（13:00より会場にて）





アクセス：JR阪和線「杉本町（大阪市立大学前）駅」下車、東口より徒歩約10分
Osaka Metro御堂筋線「あびこ駅」下車、4号出口より南西へ徒歩約20分